

2022年度 中南勢地区大会参加脚本

上演日時：7月31日(日)〔大会2日目2校目〕

女子恒星

作：山田 淳也

潤色：三重高校演劇部

上演団体：三重高校演劇部

2022年7月15日第2稿

登場人物

・渡辺 夏子

・森 久美

・クロス1

・クロス2

二人の少女の1年間を描いたものである。セリフやストーリーは役者の判断で変更する箇所がある。会話は基本的にエピソード的に作っていく。舞台装置は色とりどりのカラーボックス数個と椅子2個。吊り物の電球17個。夏子と久美の服装は劇のイメージに合うように、この劇を作ろうとする方々にお任せします。

舞台上にはもう一組の主役たちである、クロス二人がいる。クロス1の服装はふつ々の女子高生の服装で、鳥になるときは、黒いジャージを羽織る。用がないときは、舞台上の椅子がボックスに座って、二人の様子を見守っている。

1 17歳の誕生日 砂浜にて

「キラキラ星変奏曲」が流れる中、幕が開く。

夏子が薄暗い明かりの中に寝ている。

星を模した17個の電球がゆっくりと光り始める。音楽に合わせて、久美が静かにやってくる。やがて夏子のそばに立つ。

曲がフェードアウトし、波の音に変わる。夏子のそばにしゃがんで、夏子を見つめる久美。

照明が昼に変わる。

久美

ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデートゥーユー

ハッピーバースデーディアなっちゃん、ハッピーバースデートゥーユー。

おめでとー

夏子 久美、ありがとう！
久美 先越されちゃったなあ
夏子 お先失礼します。
久美 なにそれー
夏子 いや、すごくない？17歳だよ
久美 すごい
夏子 花のセブンティーンだからね？
久美 すごいすごい。で、何したい？
夏子 したい？あー、えーつと色々ある。
久美 ほおーなに？
夏子 まあ、まず海外旅行かなあ
久美 え、ごごごご
夏子 やっぱヨーロッパでしょ
久美 フランス！
夏子 イタリア！
久美 สเปน！
夏子 ドイツ！
久美 いーなー
夏子 この向こうにあるんだねえ
久美 ここは太平洋だから向こうはアメリカ
夏子 でもその向こうにあるから
久美 そうだねえ
夏子 いこう！絶対！
久美 うん。
夏子 あと他はね、UFO呼びます。

久美 … UFO?
夏子 UFO
久美 UFOって空飛ぶ方?
夏子 焼きそばじゃない方
久美 呼ぶんだ
夏子 呼ぶ
久美 え、それはなんで、そう思ったの?
夏子 なんて
久美 なんて海外旅行から、UFO?
夏子 意外と簡単に呼べるらしいから
久美 どこ情報、それ
夏子 ムー
久美 ムー?
夏子 月刊ムー
久美 …なるほど。
夏子 何なら今から呼ぼうか?
久美 え、いいよ
夏子 なんて。いいじゃん
久美 いやいや
夏子 先ずね、地球へようこそってサイン描かなきゃ
久美 サイン?
夏子 うん、ここに(砂浜を指して)。
久美 怪しくない?それ
夏子 怪しくないって。NASAだって隠してるんだよUFOを!
久美 どっぷりじゃん

夏子 なにがよ
久美 とにかくいいから
夏子 やろーよー

「いいよ」「やろーよ」と夏子は久美を追っかけまわす。逃げ回る久美。夏子はす

ところび、砂浜に倒れる。

夏子 ぐうぐうー
久美 あの、今度ね
夏子 絶対ね
久美 はいはい。それで？
夏子 まだあるよ
久美 なによ
夏子 そうだな、象の鼻に触りたい
久美 動物園の？
夏子 そんな普通のじゃなあ
久美 普通でいいでしょ
夏子 つまんないじゃん。もっとエキセントリック(風変わり)でなきゃナ
久美 どんなのよそれ
夏子 紫色しててさ、なんか触るとぶるっぶるしてんの。
久美 ゼリーみたいなの？
夏子 そうそう、それでまあ鼻が、蛇みたいに長い。
久美 それ象なの？

二人は笑いあう

久美 なっちゃんはさ、

夏子 なに

久美 どんな人だったんですか？

夏子 何それどうしたの

久美 いや、ねえ、誕生日だし

夏子 どんな人？うーん。

久美 性格とか？

夏子 うーん。…わかんない。

沈黙

久美 わかんないって！

夏子 だってさ、忘れちゃうし！

久美 なっちゃんらしい

夏子 それバカにしてない？

久美 さあ、どうでしょう。

夏子 くっそー！このやろう

夏子は久美の足元に砂をかける。

久美 ちよ、やめてやめて

夏子 砂爆弾！

久美 なにそれ！ちよっともう

夏子は久美に砂をかけるため追い掛け回す。逃げる久美、夏子またすっころぶ。

久美 大丈夫？
夏子 ぐううう
久美 走らない方がいいんじゃない？
夏子 たしかに
久美 ここ座りなよ
夏子 うん。
久美 それで、実際どうなの？実感としては
夏子 なんの
久美 17歳になつて
夏子 なんか、すごい？
久美 なんかつてなによ
夏子 分からんもん
久美 分からんことが多いですね
夏子 そういやそうだ
久美 わかるようになってんのかなあ
夏子 来年くらいには、ね
久美 大人になるかな、これが
夏子 これつて何
久美 ごめんごめん
夏子 でも人生に一回しかないもんね17歳
久美 そりゃ75歳だつて同じでしょ
夏子 いや、まあそうだけど。なんか特別な感じするじゃん
久美 うん
夏子 これからどうするかですよ

夏子は海を眺める。久美はカラーボックスの後ろから何かを取り出す。
夏子のために買った花束である。

久美 はい。
夏子 なに？
久美 プレゼント
夏子 えー、ありがとう！
久美 家族にもらってるでしょ？もう
夏子 うんまあ
久美 かぶらないほうがいいと思って、ちょっと普通じゃないやつ。
夏子 え、きれい！
久美 ですよ。
夏子 色、きれいー
久美 色、淡いのがいいよね
夏子 私これ好き
久美 よかった！。
夏子 (中を覗いて)うわー
久美 なんか星みたいな形でしょ
夏子 何て名前？
久美 何て言ったっけな。なんか珍しい花らしいけど
夏子 いやーでもこれいいよ、きれいだよ、ありがとう！
久美 そりゃよかった



潮風が吹く。二人は身をかがめる。

久美
うわっ風強っ

夏子は花を見る。花はしおれてしまっている。

夏子
えっ

久美
なに

夏子
え嘘、

久美
どしたの

夏子
えーそりゃないよ

夏子は花を見せる

久美
えっまじで？

夏子
こんなに早いもんなの

久美
傷みやすいとは言ってたけど

夏子
今の海からの風のせいだきつと

久美
そんなことある？

夏子
多分そうだ。

久美
…なんかごめん

夏子
久美は悪くないって

久美
そう

夏子
でもショック。

久美
きれいな花だったもんね

夏子
うん。

沈黙

夏子
こんなになんかすぐに枯れるもんなんだ

沈黙

夏子
よし！決めた！

久美
どうしたの

夏子
やること決めた！

久美
何するの？

夏子
花探す！

久美
花つてこの花？

夏子
ううん、もっと大きくて、超、レアなやつ。

久美
大丈夫？

夏子
すぐ見つかるって

久美
ほんとに？

夏子
久美のくれた花もよかったけどね。

久美
ありがとう。

夏子
でも自分で見つけた花を、持って帰って部屋に飾りたい

久美
またすぐ枯れるかもよ

夏子
あー

久美
でも、ちゃんと保管すれば大丈夫か

夏子
そうそう

久美 確かにもう一回見たいな

夏子 そう。そう思った

久美 探そうか

夏子 そうしよー！決定。

2 船旅 くボン・ボヤージュく

音楽『きらきら星変奏曲』流れ、二人と一人のクロス(恰好は女子高生私服)が箱と椅子と、箱の裏にあつたおもちゃのハンド
ルを中央に持つてきて船を作つていく。本体が箱、椅子が座席。傘(マスト・釣り竿)とバッグ(中に水筒と包丁、しょうゆ、箸
2膳)。

夏子 かんせー！

久美 疲れたー

夏子 ちっちゃー！

久美 こんな船で大丈夫かな

夏子 いや、イケルイケル

久美 その自信はどこから来るの

夏子 時間かかったし

久美 時間の問題じゃなくない？

夏子 乗つてみたら分かるつて

久美 まあね

夏子 よし乗ろう

久美 壊れないかな

夏子 最悪だよそれ

久美 じよーだん

夏子 悪質ですがな

久美 ごめんごめん

夏子 よいしょ

夏子が船に乗り込む。

夏子 いけるわ。すごい丈夫。

久美 ほんと？

夏子 きてみ

夏子は久美の手を取り、船に乗せる。

久美 ほんと！いけそう

夏子 いいの作ったわ。結構簡単

久美 あのさ、なっちゃん

夏子 ん？

久美 いや、今さらか

夏子 なに？

久美 いや、まあ

夏子 何よ、気になるから

久美 ……何で船つくった？

沈黙

夏子 海渡るため

久美　　なんで？
夏子　花、外国にあるでしょう

沈黙

久美　　うん、それはそうなんだけど
夏子　　どういうこと？
久美　　もつとほかに方法ないかな？
夏子　　飛行機高すぎるでしょ。フェリー高すぎるでしょ
久美　　ほら、バイトしてためるとか
夏子　　だめ！
久美　　え、なんで
夏子　　即決断！即行動！
久美　　これで太平洋横断かあ
夏子　　やってできないことはない
久美　　やっぱりちよつと考えようよ
夏子　　出航！
久美　　えー



汽笛が鳴る。夏子はハンドルを握り、スクリューのレバーを下ろす。

夏子 エンジン全開！

久美 はいはい

夏子 沖に出るまではエンジン

こわっ

夏子 後ろどう？

久美 もうこんな遠く

夏子 きもちい！

久美 風がいいね

夏子 サイコー

久美 サイコー

夏子 よっしゃー！いくぞー！

久美 いくぞー！

エンジンの音、強くなる

夏子 よっしゃー！の辺で

夏子はエンジンを止める。。

夏子 マスト上げよう

久美 了解

久美はマスト(傘)を上げる



夏子 もっと傾けて、ほら

久美 こつち？

夏子 違う違う

久美 こつちか？

夏子 風を読んで

マストが風を受けて船は大きく前進する。

前進している様子はコロスが舞台の前方からうちわで風を送って表現

久美 うわっ

夏子 よし！

久美 すごーい。こんなにスピード出るんだ

夏子 快適！

久美 きもちいいね！

夏子は水に手を触れる

コロス戻る

夏子 水があつたかい！

久美 黒潮つてこと？

夏子 流れに乗ってるね

久美が傘をたたむ。

夏子水で遊んで、舐める

夏子　しよっぱーい
久美　水飲む？
夏子　うん

久美は水筒を取り出し、渡す。夏子は水をおいしそうに飲む。

夏子　あーおいしい。
久美　私も

久美も飲む

3 魚たちの午後

夏子　そろそろお昼にしようか
久美　うん。

久美、マストを下ろす。

久美　（バッグを示しながら）缶詰あるよ
夏子　缶詰？
久美　うん
夏子　だめ
久美　えーなんで？
夏子　だめでしょ

久美 だからなんで

夏子 缶詰は残しとこ。まずは魚でしょ

久美 魚？

夏子 釣って食べよう

久美 あー

久美は夏子に傘をわたし、夏子は傘を釣り竿のようにして、エサをつけるマイム。そして釣り竿を海に向かって振る。

久美 なに釣れるかな

夏子 でかいのがいい

久美 毒ない奴がいいな

夏子 待ちが肝心！

夏子は鼻歌を歌う。(サカナクション「新宝島」、「魚を食べると頭がよくなる」?)
久美も一緒になって歌う。

久美 あ、あれ魚の影じゃない？

夏子 え、どれ？いないじゃん。

久美 あっちの方に見えた。

夏子 やっぱいるんだ。

久美 うん。

夏子は鼻歌を歌い、釣り糸を垂らす。

久美 (もう一回久美のぞき込んで) やっぱり魚だよ

夏子 どことどこ?

久美 ほら、あそこ

久美は指をさす。すると二人は船から海に飛び込み、魚になる。

魚1がクロス1、魚2がクロス2。

魚になった二人、泳ぎ回る。

別の場所に集合。

魚1 おい！おい！

魚2 な、何ですか

魚1 あれ見ろ(上を見る)

魚2 な、これ、桜エビですよん

魚1 そーなんや

魚2 こんなごちそうないですよ 早く食べまひよ

魚1 まあ、まて

魚2 なんですか！

魚1 耳澄ましてみ

魚2 なんか鼻歌？

魚1 そうなんや

魚2 鼻歌がどうかしましたか

魚1 あほっ

魚1が魚2を殴る

魚2 いてー殴ることないですわ

魚1 あほがー釣りかもしれんつちゅーじや

魚2 つ、釣りっひいっ

魚1 どうにもこれは賭けやな

魚2 桜エビ…

魚1 危険冒してまで乗る勝負とちゃうな。やめて

魚2 でも兄貴、桜エビが

魚1 なんなんや

魚2 もつたいない

魚1 ほかにいくらでもおるわ

魚2 く、クソ、ええい、食ったるわい

魚1 やめろやめろ！

魚2はエサを食べようとするも、魚1がそれを止めようとする。

魚2 止めないでくださいー！

魚2は桜エビに食らいつく。もぐもぐ幸せそう。しかし徐々に違和感。釣り針がナナメ。

魚1 いわんこっちゃない

魚2 いったー！ーいー！

魚2は上に引っ張られていく。

二匹は人間に戻る。

二人の漫才の間に、裏方がビニール袋で作った大きな魚を釣り竿(傘)にビニールひもで付けておく。

久美 は！

久美はいつの間にか眠ってしまっていた。夏子も釣竿を持ちながらうとうととしている。

久美 なっちゃん、引いてる、引いてる

夏子 ほんと！

夏子は竿を引く。

夏子 お、おもっ

久美 でかいよこれは！

夏子 ちよつと手伝って

久美 うん

二人で釣竿を支え、夏子はリールを巻く動作。最後は紐を引っ張る。

二人 せーの！（魚が上がってくる）

夏子 うわー、久美、抑えて！

久美 え、「あ、はい！」

久美、魚を押さええにかかる

。

久美 わっ

夏子 食べられそう

久美 逃げる逃げる

夏子 つかまえて！

久美 わーっ。

久美は手から逃れた魚を追いかける。

久美は魚を捕まえ、抑え込む。

夏子はバックから包丁(手作り)を取り出す。

夏子 貸して。さばくわ

久美 今夜はお刺身だ

夏子 これ、どうやってさばくんだっけ。

久美 こんな大きいのが、やったことない。

夏子 どうしよう。

久美 とりあえず首を落としてみたら。

夏子 うん、そうしよう。

硬いが、何とか首を落とす。ちょっと残酷な音。

夏子魚をさばこうとするがもたつく。

久美 やろうか？

夏子 うん、あとは任せる

久美は手際よく三枚おろしにして、お皿に盛る。

夏子

すい

久美 お父さんが釣ってきた魚をさばいたことあるから

夏子 これなんて魚かな

久美 なんだろ、全身青かったよね

夏子 きれいな青

久美 まあ食べれそうだし

夏子 それじゃあ。

久美 (カバンからしょうゆを取り出す。) なっちゃん、しょうゆ、しょうゆ。
夏子 それぞれ。

久美、しょうゆをかけ、箸を渡す。

二人 それじゃあ、いただきます

二人で魚を食べる

夏子 うまー！

久美 おいしい

夏子 これはあたり！

久美 よかった

夏子 いけるいける

久美 もうそんなに

夏子 全部食べるよ

久美 私も

二人は完食する。

二人 ごちそうさまでした

夏子 おいしかった

久美 ね

夏子 骨は捨てる？

久美 うん。

夏子は骨(魚)を海に捨てる。次の瞬間、また二人は魚になる。魚2は骨になっている。

魚1 こんなになつて。このあほーうつつつつ。

チーン。合掌。

夜になり、星が光ってくる。

二人は船の甲板で寝てしまう。

コロスがその間に魚と包丁を片付ける。

4 嵐

夏子 久美？寝てる？

久美 :

夏子 寝ちゃった。私も寝よ。

星がだんだんと光を失う。

雷が鳴る。雨が降り始める。

夏子 うわっ
久美 なになに
夏子 どうしよ
久美 え、つめたっ
夏子 やばいやばい、風邪ひく
久美 なにこれ？
夏子 まずいな

雷が鳴る

久美 ぎゃっ
夏子 久美。
久美 え、何？
夏子 (下手を見ながら)波が来る。
久美 えっ！
夏子 伏せろ！

下手からコロス二人がつくる波(ブルーシート)を乗り切る。

久美 やっば。
夏子 手を離しちゃだめだよ！
久美 うん
夏子 また来る！

今度は上手から波が来る。

前以上に大きく揺れる二人。

久美 きつい

夏子 大丈夫？

久美 なんとか

夏子 やばいね

久美 うん

夏子 船が、壊れる

また下手から波が来る。

久美 どうする

夏子 あの波！

久美 あの波が？

夏子 波に乗ろう！

夏子は操縦席に座り、舵(ハンドル)を持つ。

久美 なっちゃん、来たよ。

夏子 うん。

夏子はハンドルを右に切り、久美と夏子は体を左を右に傾ける。

椅子の向きも下手向きに変わる。

船は波を乗り切った。

夏子
越えた。

久美
なっちゃん、今度はあっち(上手)

夏子はハンドルを左に切り、久美は体を左(夏子の方向)に傾ける。

椅子も今度は上手を向くようにする。

船は波を乗り切った。

夏子
乗れた！

久美
やった！

夏子
これでとりあえず

久美
あ、あれ

久美は前方(客席側)を指さす。そこには乗っている波よりはるかに巨大な波が

夏子
え？

久美
うそ

夏子
こんなのつて

久美
来るよ！

大きな波の音。

コロスが正面からブルーシートをかぶせ、船(箱)をバラバラにする。

暗転。

5 上陸

再び明かりがつくと、二人はどこか不明な砂浜に打ち上げられていた。
久美のそばにはリュックがある。
久美目覚める。

久美 なつちゃん？

夏子 うーん

久美 なつちゃん起きて

夏子 なにー？

久美 久美

夏子 え、久美か

久美 見てこれ

夏子 ん？どこ？

久美 いつのまにか

夏子 うわ、砂

久美 なつちゃん磯臭い

夏子 久美も

久美 まじで

夏子 体あらいたーい

久美 ここどこだろ

夏子 見覚えなし

久美 でっかい波にのまれて、流れ着いて

夏子 ……外国？

久美 ……かも

夏子 うっひょー！

久美 うつひよーつて
夏子 うつひよーだよー念願の外国だよ？
久美 遭難しただけですよ
夏子 なんか外国な気分！
久美 わが身の心配をしなさいよ
夏子 そんな暇ない！
久美 よかったね

夏子は好き勝手走り回っている。久美は咳を一つ。立ち上がる。

久美 なつちゃーん
夏子 ーん？
久美 花探すんでしょ？
夏子 そうだそうだが
久美 忘れちゃつて
夏子 すんまそん
久美 ありそつかない
夏子 ーん。
久美 なんか花がありそうな風景ではないね
夏子 うん。
久美 なんていうのこれ…砂漠？
夏子 見渡す限り砂つていうか。
久美 うん
夏子 (地面を見て)あ、砂、波の形になつてる
久美 ほんとだ

夏子 けっこうきれい
久美 でも、そんなこと言ってる場合？

顔を見合わせる

その時鳥の鳴き声が。

コロスが演じる二羽の大きな黒い鳥が地面に降りてくる。

夏子 食べにきたんだ

久美 私達を

夏子 うん。(鳥を狙っている)

久美 ちよ、やめてよ

夏子は飛び出して鳥をキャッチしようとする。

久美 なっちゃん？

バサバサと羽音。鳥は逃げてしまう。

夏子 くそっ

久美 そんなにガッて行ったら逃げるよ

夏子 あーあ、もう。いけると思ったのに

久美 あれで？

夏子 なんかどっかの民族の人がこうやってがって

久美 仰天ニュースでしょ

夏子 うん

久美 影響されやすい

夏子 うん

久美 花探しに行く？

夏子 うん

二人は歩きだす。しかし砂漠は足元が悪く、のども乾く。

夏子 久美、水ない。

久美 はいはい(リュックからお茶を出す)

夏子 うーんなんかぬるい

久美 贅沢いわない

夏子 ありがとう

また歩く。しかし立ち止まる。

夏子 休憩しよう

久美 うん。この島、大丈夫かな。

夏子 大丈夫だよ

久美 大丈夫じゃないよ

夏子 こういう時は楽しいこと考える

久美 楽しいこと

夏子 わたしだったら、そうね紫色の象がいてさ、目は吊り上がって、耳は顔くらいあつて、なんかぶるぶるしてさやつ。

久美 言ってたやつね

夏子 そう。そいつのなっがいへびみたいな鼻につかまって背中のもる。

久美 想象しづらいな

夏子 すっごい楽しい
久美 楽しそうね

その時、何か大きな生き物の足音が近づいてい来る。

夏子 え、何の音。
久美 まさか、象？
夏子 そんなのいるわけないよ。

パオーンという鳴き声、舞台上に巨大な紫の象が現れる。
紫の象をどう表現するかは、皆さんにお任せします。

6 紫象さんばおーんばおーん

久美 え、うそ
夏子 ええー、なんで？
久美 さっき言ってたのってこんな感じ？

夏子はうなずく

夏子 こんなことある？
久美 うわー真紫
夏子 なんか気持ち悪い
久美 想像の〇倍くらいでっかいんだけど
夏子 わたしも

久美 怖いよ
夏子 いや、これはチャンスかも
久美 え、なんで
夏子 乗せてもらおうよ
久美 え、どうやって
夏子 おーいーいきこえますかー！私たちを乗せてってー！
久美 わかるかなあ

コロス1は象1、コロス2は象2

象1 おい
象2 なんだい
象1 あれ見ろよ
象2 ん？
象1 あれだよ
象2 あれ？
象1 あれだよあれ
象2 豆粒じゃない
象1 そうそう
象2 それがなにか
象1 何か聞こえないか
象2 ん、ああ
象1 こいつら何かしゃべってるぜ
象2 もしかして困ってるのかな
象1 こいつらもこの砂漠で生きていくのは大変だろうよ



象2 うん
象1 ちよつと乗せてつてやろうぜ
象2 どこまで
象1 水場まで
象2 いいんでねえの
象1 じゃあ背中乗せてやろう
象2 そうね

象たちは鼻を伸ばし、二人を背中に乗せる。
二人は人間に戻る。二人は椅子に座る。
象の背中に乗っている。

夏子 ひゃっほー！！すごい！たっかい
久美 うわあ、私無理
夏子 ビビリ君
久美 そんなレベルの高さじゃない
夏子 大丈夫だよ！
久美 やっぱすごいね
夏子 あ、あつちに森
久美は咳込む

夏子 見てーチヨーでっかいキノコあるよ
久美 あ、ほんと
夏子 すごいーあれたべたい！

久美 危なそうな色してる

夏子 さっきの鳥だ！

久美 おおー

夏子 ここから何でも見える。

久美 そうだね、いや、見えないところあるな

夏子 ん？

久美 足元は見えない

夏子 ま、そつか

久美 :

沈黙

二人は象になる

象1 おい、あれ

象2 ん？

象1 霧だ

象2 霧？

象1 夜の霧だよ。

象2 毎日来るじゃない

象1 早すぎる

象2 言われてみれば

象1 なにかおかしい

象2 心配し過ぎなんでねえの

象1 いや、異様だ。いつもより色が濃い

象2 なんか黒いな

象1 全てのみこむ勢いだぞ。これはもう砂にもぐったほうがいい

象2 そうか

象1 こいつらには悪いがここまでだ。

象2 降りてもらおうか

鼻を伸ばす。降りてもらおう。

7 夜の霧(濃いめ)

二人は霧の砂漠に降りたつ

夏子 なんか、冷たい

久美 ぞわつとしない？

夏子 何も見えない…

久美 1メートルも見えないよ

夏子 なんなの、これ

久美 わかんない

夏子 なんか、やばい

夏子は手を伸ばすがすぐぐひっこめる。

夏子 これじゃあ見つからない

久美 なっちゃん…

夏子 空もみえないんじゃないかな

久美 夜なのかもよ

夏子 夜？

久美 うん

夏子 急に夜が来たってこと？

久美 夜に覆われたって感じ？

夏子 星がない

久美 あー

夏子 星が見えない夜空なんて

久美 そっか

雨が降り始める。

夏子 あ、

久美 なんか踏んだり蹴ったり

クロス二人が二人に傘を渡す。

夏子と久美、直立で会話する

夏子 ねえ

久美 なに

夏子 久美ってさあ

久美 なに

夏子 好きな人いんの

久美 急にどうした

夏子 ん、何となく

久美 なんとなくって

夏子 何となく君まちたる心地して

久美 なんだよそれ

夏子 どーなんすか

久美 まあ、いるけども

夏子 ……やっぱし

久美 何その反応

夏子 いいもん

久美 よくわからん

沈黙

夏子 星っていいな

久美 なんで

夏子 んー、だってさ、ずっと光ってるでしょ

久美 そうだね

夏子 ずっと光れるって、なんか、うらやましい

久美 でも寿命はあるよ

夏子 なっがいんでしょ

久美 長いかは、星になんないとわかんない

夏子 そっか

沈黙

久美 ひかかないほしもあるよ

夏子 え？

久美 一生光らない星。

夏子 へえ

久美 光る星の光を反射するだけ。

夏子 変な星

久美 ……そうね

沈黙

夏子 星も死ぬんだ

久美 死なないものなんてないでしょ

夏子 なんか残念

久美 残念か

夏子は空を見上げる。

夏子 見える

久美 え？

夏子 星が見えるよ！

久美 見えないよ

夏子 知ってるよ！

久美 なんじゃそれ

夏子 想象してるんじゃない

久美 ああ

夏子 きれいなお星さまね

久美 ……すごいね、あんたは

夏子は傘を投げ捨て小躍りする

久美
風邪ひくよ

夏子は『見上げてごらん夜の星を』を歌う。

久美、それを優しく見守る。

夏子、歌い終わると久美のほうを見る。

すると久美はせき込み、倒れこむ。

夏子
久美！

8
別れ

久美は倒れ、夏子はどうにかしよつとするがどうにもできない。

久美
なっちゃん

夏子
久美、どうしよう

久美
大丈夫、私は

夏子
うそ

久美
うん。うそ。わかんない。

夏子
どうしよう

久美は咳込む。

夏子 戻ろう

久美 どうやって

夏子 来た道を引き返そう

久美 そっか

夏子 家に帰ろう

久美 そうだね

夏子 久美歩ける？

久美 うん。

夏子 よし、いこう。

歩き出す二人。久美が止まる。

久美 なっちゃん

夏子 ん？

久美 なっちゃんはいいや

夏子 どういうこと？

久美 花、どうすんの？

沈黙

夏子 どうするって

久美 もういいの？

夏子 よくないけど…

久美 よくないけど何

夏子 そんな場合じゃないし

久美 なにそれ
夏子 どうしたの久美
久美 探しなよ
夏子 でも
久美 でも、何

沈黙

久美 言い訳にしないで
夏子 え、？
久美 探してきてよ。
夏子 …うん。
久美 ほんとに欲しいんでしょ
夏子 …うん。
久美 …お願い
夏子 …うん。

二人は背中合わせになり反対向きに歩き始める。

夏子 ばいばい
久美 ばいばい
夏子 ばいばい
久美 ばいばい
夏子 ばいばい
久美 ばいばい、ばいばい

久美は見えなくなる。夏子はそれまでお別れを言い続ける。

9 再出発

夏子はバックからノートを取り出し、床を使って書く。

夏子 今日から日記をつける。出発から半年すぎたあたりで、久美と別れたから、暇だからだ。でもまだあの花を探して歩いていこうと思う。ずっと歩いていこうと思う。

夏子は歩き始める。久美が病院のベットに座っている。

久美 なっちゃんへ 届くはずもないけど、手紙を書きます。私は今町の病院です。なんか病気が流行ってるみたい。ベットの数が足りないって先生嘆いてる。私は運よく入れたよ。元気になったらまた会おう。

42

久美はベットで寝る。夏子は傘で地面に何か書いている。

夏子 作戦変更、UFOを呼ぼうと思う。なぜなら高くから見れるし、はやく移動できるから。ここで月刊ムーの知識が生きる。早くあの花に会いたい。あの花に会ってずっと私のものになりたい。

久美 なっちゃん元気ですか。私は順調です。こっちは今大変なことになってるよ。あの日砂漠で見た黒い霧が町にも来てる。世界中が夜に沈んでいってます。こんなこと今までなかったのに。

夏子は自分で書いたサークルの周りをまわっている。

夏子 ベントラーベントラーベントラーベントラー。おいでおいでおいでおいでエイリアン、エイリアン。ベントラーベントラーベ

トラーベントラー。
今日も来ない

久美は激しくせき込む

久美　もう花は見つけましたか。今どこにいるの？もう外はずっと真つ暗。でもなっちゃんは大丈夫だろうと思います。早く花を見つけて私にも見せて。

夏子　今日で何日経ったか。UFOまだか！ちきしょう。ガッデム。こんなだったら別の方法、

夏子の頭上にまばゆい光が。UFOが来た。夏子は手を頭にかざす。

夏子　来やがった

夏子は手を空に振る。

久美　なんか今世界中でUFOが目撃されてるんだって。毎日くらいよく見れるんだって。自由自在に動き回る星みたいらしい。もしかしてなっちゃんUFO乗ってる？全然ありえるよね。

夏子　UFOチヨー楽しい。エイリアンも言葉通じないけどいい奴。空からだと探しやすい。星、五つです。

久美　先生に止められた。寝てなさいってさ。でもいつかなっちゃんに読んでほしいから、手紙を書きました。できるだけ早く。

夏子はUFOから花を見つける

夏子　あーああーとめてとめてーあった！

夏子はUFOから飛び降りて花を取りに行く。夏子は何も言わずただ花を眺め、喜びをかみしめる。そして空に花を掲げる。

暗転。すぐ明転。波の音。「ここは砂浜。」

夏子　これで一年たつのか。

夏子はぼんやりと海を見る。

夏子　ハッピーバースデイトゥーミー、ハッピーバースデイトゥーミー、ハッピーバースデイトゥーミー、ハッピーバースデイトゥーミー。

ミー。

沈黙

夏子　…届いてるかな

立ちあがり、海を見る。

久美が病院のベッドで寝ていると、一羽の鳥が飛んでくる。窓をつつくので、久美は上半身を起こし、窓を開ける。

久美　どっからきたの？ん？なにこれ

久美は伝書鳩から手紙を取り、読む

久美　なっちゃんからだ！久美へ。病気は大丈夫でしょうか。無事家に帰れたようでよかったです。早く治してね。

夏子　さて、花のことを書きたいと思います。久美と別れた後、UFOを呼んで、空から花を探しました。そして半年くらい探してようやく見つけた。そう、見つかったのです！でもね、やっぱりすぐに枯れちゃった。あの花は久美と見た時のまま、本当にきれいだった。だからなのかな。…あと少しで、私は誕生日を迎えます。次は18歳。だから、あと少しで、十七歳の私は、死

にます。「これは今の私からのお願い。」この手紙をどうが残しておいて。ずっとずっと残しておいて。「これはそのための手紙。」
夏子。

久美は手紙をおろす。窓の外を見る。

夏子の元にも、伝書鳩から手紙が届く。

夏子、手紙を読む。

夏子
なっちゃんへ久美より。病院ですつと手紙書いてました。届かないかと思ったけど、届いたらうれしい。

久美
病気は心配しないで。半年後くらいにはよくなるって。町はどこの家も締め切ってる。相変わらず夜が続いてるけど、なっちゃんだけは元気してるでしょ。花は見つかった。私の方はどうと、実は一つ見つけました。しかもガラスでできてるの。毎日見てにやにやしてる。

夏子
うそ！

久美
ほんと！どこにあったかというと、

夏子
というと

久美
なんとびっくりポケットの中！

夏子
ええ！

久美
ひっそりとあった

夏子
そんな

久美
なっちゃんもポケットを見てみてください。きっとあるよ。

夏子はポケットを探る。発見。

夏子
あ

夏子はきれいなガラスの花をかざしてみる。

夏子
久美！

久美
なっちゃん、17歳の誕生日に、私がした質問の答えを、今度会ったら教えてね。

夏子
え？

久美
なっちゃんはさ、どんな人だったんですか？

夏子
私は…

『キラキラ星変奏曲』流れる。ついている17個の明かりをひとつづつながめ、自分の誕生日を思い出す。セリフにしてもいい。

久美
ポケットにあっただしょ

夏子
うん

久美
じゃあまたね

夏子
まって！

久美は待たずに歩いていく。

夏子
久美！

久美は消えてしまう

夏子
久美！

夏子は座り込んで泣いてしまう。胸にガラスの花をもって。
18個目の明かりがついて

幕